

令和6年度 墨田区立第一寺島小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 高橋 誠人

学校教育目標	○進んで学習する子 ○思いやりのある子 ○からだを大切にする子
目指す学校像	○「笑顔と真顔と得意顔」のある学校
目指す児童像	○生き生きと学習をしたり運動をしたりする児童
目指す教師像	○自分の仕事に自信と責任をもち、自己の能力を向上させようとする教師

<p>○令和6年度 学校経営計画における重点内容</p> <p>【夢と希望を実現するための学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種学力調査の結果を学力向上プランに繋げ、授業に反映させる。</li> <li>・校内研究を国語科に設定し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化の実現に向けて、研究授業を充実させる。</li> <li>・学力向上重点学年（5年 国語科及び算数科）を設定し、校長直轄で日々の授業改善を行う。</li> </ul>
---

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
各教科指導等	<p>確かな学力を全ての子供たちに着実に身に付けさせる。</p> <p>①学力調査の結果を授業改善に結び付ける</p>	<p>①9月中に全ての担任が各種調査結果を受けた学力向上プランを作成し、全員と面接を行い授業改善に生かす。</p>	4	授業改善に向けた学力向上プランの作成100%	4	4	学力調査で正答率が低かった領域の授業の実施率100%	<p>○墨田区の学力調査を振り返り、全ての学級担任が改善プランを作成することができた。</p> <p>○学力向上プランで具体的な教科や領域を指定したため成果指標が100%となった。</p>	<p>○学力調査の結果を授業に反映することはできている。一方で、個々の習熟度の状況に応じての手だての有効性を明確にする必要がある。</p> <p>○来年度の調査で分析をする、</p>	A	A	<p>・授業についていけない児童についての支援体制はどのようになっていますか。</p> <p>→支援員等について説明。個を大切にした授業改善について説明。</p>	
			3	授業改善に向けた学力向上プランの作成80%以上		3	学力調査で正答率が低かった領域の授業の実施率80%以上						
			2	授業改善に向けた学力向上プランの作成60%以上		2	学力調査で正答率が低かった領域の授業の実施率60%以上						
			1	授業改善に向けた学力向上プランの作成60%未満		1	学力調査で正答率が低かった領域の授業の実施率60%未満						
	<p>教員の授業改善に向けた授業力向上</p> <p>①校内研究を国語科に設定し、学力向上のための、個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実を努める。</p>	<p>①年間3回の研究授業と3回の授業力向上研修を行う。授業力向上研修では、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善に向けて</li> <li>・学力調査について</li> <li>・評価について</li> </ul> <p>等を行う。</p>	4	教アで「校内研修会が自身の授業力の向上につながった」等の肯定的な回80%以上	4	4	年度末児童自己評価で「授業が分かる、できる、楽しい」等肯定的な回答80%以上	4	<p>○児童アンケートでは、83.2%の児童が「授業が楽しい」と回答している。</p> <p>○16.8%の児童は「授業が楽しくない」と回答している。</p>	<p>○児童が学習に対して前向きに取り組めるように、校内研究などで指導法を工夫していく必要がある。</p> <p>○特に、主体的に学習に取り組むことができるようにする必要がある。</p>	A	A	<p>・「楽しくない」と考えている児童について、原因と対策を考えてほしい。</p> <p>→学校、家庭が協力して支持的風土の中で、安心できる学習が進められるようにしたい。</p>
			3	教アで「校内研修会が自身の授業力の向上につながった」等の肯定的な回70%以上		3	年度末児童自己評価で「授業が分かる、できる、楽しい」等肯定的な回答70%以上						
			2	教アで「校内研修会が自身の授業力の向上につながった」等の肯定的な回60%以上		2	年度末児童自己評価で「授業が分かる、できる、楽しい」等肯定的な回答60%以上						
			1	教アで「校内研修会が自身の授業力の向上につながった」等の肯定的な回60%未満		1	年度末児童自己評価で「授業が分かる、できる、楽しい」等肯定的な回答60%未満						
	<p>教員の指導力・授業力向上に向けた取組</p> <p>①人事考課制度を活用し、管理職より直接授業力向上について指導を行う。</p>	<p>①年間3回の授業観察とその後の指導を行う。</p>	4	年間3回の授業観察と事後指導100%	4	4	年度末児童自己評価で「授業が分かる、できる、楽しい」等肯定的な回答80%以上	4	<p>○年間3回の授業観察以外にも、日々の授業観察などで、教員の指導力の向上が図られた。</p>	<p>○子供たちが、自分の成長を実感できるような手だてがあると、さらに肯定的な回答が増えると考えられる。</p>	A	A	<p>・児童が自分の成長を時間できることはとても大切。運動で活躍する、学習で活躍する等、少しのことでも褒めて、学校を楽しんでいると思わせてほしい。</p>
			3	年間3回の授業観察と事後指導90%以上		3	年度末児童自己評価で「授業が分かる、できる、楽しい」等肯定的な回答70%以上						
			2	年間3回の授業観察と事後指導80%以上		2	年度末児童自己評価で「授業が分かる、できる、楽しい」等肯定的な回答60%以上						
			1	年間3回の授業観察と事後指導80%未満		1	年度末児童自己評価で「授業が分かる、できる、楽しい」等肯定的な回答60%未満						
生活指導等	<p>いじめの未然防止のために、全校朝会の校長講話や担任からの授業でいじめは絶対にいけないことを示す。</p> <p>①いじめはいけないことだということを教師から学ぶ</p>	<p>①いじめの未然防止のために、毎月1回、校長講話でいじめ防止に関する講話を行う</p> <p>②いじめの未然防止のために、全ての学級で年間3回以上いじめ防止の授業を行う。</p>	4	年間11回の校長講話と年間3回のいじめ防止授業の実施100%	4	4	「いじめはぜったいにいけないものだ」という問いに対する回答95%以上	4	<p>○いじめ防止に対する取組が児童のいじめ防止に対する意識の高さに繋がっている。</p>	<p>○軽微ないじめを逃さず、今後も一つ一つ丁寧に対応していくことが課題である。</p>	A	B	<p>・教員の児童への影響は大きい。生活指導の先生によっても対応の早さが変化する。教員の指導力向上を今後も頑張ってもらいたい。</p>
			3	年間11回の校長講話と年間3回のいじめ防止授業の実施80%以上		3	「いじめはぜったいにいけないものだ」という問いに対する回答90%以上						
			2	年間11回の校長講話と年間3回のいじめ防止授業の実施70%以上		2	「いじめはぜったいにいけないものだ」という問いに対する回答80%以上						
			1	年間11回の校長講話と年間3回のいじめ防止授業の実施70%未満		1	「いじめはぜったいにいけないものだ」という問いに対する回答80%未満						
	<p>①いじめの早期発見、早期対応、早期解決のために、児童の実態調査を行ったり、情報共有を行ったりする。</p> <p>②いじめの早期発見のためのアンケートを実施する。</p>	<p>①いじめの早期発見のためのアンケートを年間3回（6月、10月、1月）実施する。</p> <p>②週1回、生活指導夕会で、学校内外の様々なトラブルに対して全教員で共有する。</p>	4	年間3回のアンケートと毎週1回の生活指導夕会の実施95%以上	4	4	アンケート結果の対応率100% 3ヶ月以内の解決95%以上	4	<p>○いじめ防止のアンケートや教育相談などにより、軽微ないじめを逃さず、迅速に対応できたため、3ヶ月以上続くいじめの発生はなかった。</p>	<p>○今後も、いじめ防止の授業、全校朝会での話、いじめ防止アンケート等、様々な方法でいじめ防止に努める。</p>	A	A	<p>・いじめの対応について、児童への寄り添い方で教員による対応の違いがでないようにしてほしい。</p> <p>→いじめ防止についての学校での対応を説明。</p>
			3	年間3回のアンケートと毎週1回の生活指導夕会の実施90%以上		3	アンケート結果の対応率100% 3ヶ月以内の解決90%以上						
			2	年間3回のアンケートと毎週1回の生活指導夕会の実施85%以上		2	アンケート結果の対応率100% 3ヶ月以内の解決85%以上						
			1	年間3回のアンケートと毎週1回の生活指導夕会の実施85%未満		1	アンケート結果の対応率100%未満 3ヶ月以内の解決85%未満						
	<p>不登校の予防と解決に向けた取組</p> <p>①全教職員の共通理解のもと機動的に対応し、担任を支援する。</p> <p>②積極的に外部機関との連携を図り、短期解決に向け尽力する。</p>	<p>①2日連続で欠席した場合は、cocooによる連絡があったとしても、原則保護者に連絡をする。</p> <p>②1週間欠席が続いた場合は、原則墨田区子育て支援総合センター課やSSW、区教育委員会に連携をし、対応策を共有する。</p>	4	家庭や専門期間との左記の条件の基の連携100%	4	4	不登校の出現率 学校で5名以内	4	<p>○不登校を防止するための、学校の支持的風土の確立が成果として表れた。</p> <p>○異学年交流や児童が主体的に行う活動などをできるだけ多く取り入れたことが自立的な児童の育成に繋がった。</p>	<p>○児童主体の活動が展開されるような教育課程の工夫が必要である。</p>	A	A	<p>・不登校の対応について児童によりそった対応を今後も望む。</p> <p>→教室に入れない児童に対して、タブレットや保健室登校をし、学校の関係を崩さないようする。</p>
			3	家庭や専門期間との左記の条件の基の連携95%以上		3	不登校の出現率 学校で10名以内						
			2	家庭や専門期間との左記の条件の基の連携90%以上		2	不登校の出現率 学校で15名未満						
			1	家庭や専門期間との左記の条件の基の連携95%未満		1	不登校の出現率 学校で15名以上						

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
	自分の仕事に自信と責任をもち、自己の能力を向上させようとする教師の育成 ①校内で公開する授業を行う。 ②校外で授業観察を行う。	①年間10本以上公開する授業を行う。 ②年間5本以上、校外で授業観察を行う。	4	年間5本以上、校外で授業観察を行う100%	4	年間10本以上公開する授業を行う95%以上	○校内研究授業、年3回の授業観察、交流授業、区小研の研究授業等により、教師の指導力の向上に繋がった。	○研究授業をするための準備の時間や、実施した後の協議会の時間を捻出することが課題である。	A	A	先生達の勤務に時間等についての質問 →勤務実態を説明。
			3	年間5本以上、校外で授業観察を行う95%以上	3	年間10本以上公開する授業を行う90%以上					
			2	年間5本以上、校外で授業観察を行う90%以上	2	年間10本以上公開する授業を行う85%以上					
			1	年間5本以上、校外で授業観察を行う90%以下	1	年間10本以上公開する授業を行う85%未満					
学校の管理運営	教職員のライフワークバランスの支援	①年次有給休暇の取得を奨励する。 ②各種特別休暇の周知と取得促進をする。	4	平均年次有給休暇取得日数 17.5日以上	4	月あたりの残業時間、45時間以内90%以上	○会議の精選、学校組織の見直し、支援員の雇用、学校閉庁日、事務整理日の確保等、働き方改革の推進を行った。	○「働き方改革」を進めながら、教員の「働きがい」も大切にしていく。	A	A	・先生方のライフワークバランスも大切にしていってほしい。
			3	平均年次有給休暇取得日数 15日以上	3	月あたりの残業時間、45時間以内80%以上					
			2	平均年次有給休暇取得日数 10日以上	2	月あたりの残業時間、45時間以内70%以上					
			1	平均年次有給休暇取得日数 10日未満	1	月あたりの残業時間、45時間以内70%未満					
	勤務事故未然防止の取組 ①勤務事故防止研修を行う。 ②副校長から、日々の業務に関わる注意喚起を行う。	①校長から、毎月「使命を全うする」の各項目ごとに勤務事故防止研修を行う。 ②副校長から、適宜（月に1回～2回程度）個人情報漏洩や個人情報管理等、日々の業務に関わる注意喚起を行う。	4	年間12回の研修と毎月1回以上の注意喚起 100%	4	勤務事故発件数 0件	○自分事として年間12回の勤務研修を行うことができた。	○繁忙期の個人情報紛失など、業務量と勤務事故との関連を基に、計画的に業務を行ったり、勤務事故が起こりやすい時期に研修や声かけを随時行っていく。	A	A	・公開や地域での様子を見てみると、担任ではなくても信頼できる先生をもつことができている児童が多いように感じる。今後もみんなで児童をみていく体制を続けてほしい。
			3	年間12回の研修と毎月1回以上の注意喚起 95%以上	3						
			2	年間12回の研修と毎月1回以上の注意喚起 90%以上	2						
			1	年間12回の研修と毎月1回以上の注意喚起 90%未満	1	勤務事故発件数1件					
家庭・地域連携	教育課程を地域・保護者に公開をする。 ①学校公開や学校保健委員会・道徳授業地区公開講座、運動会や音楽会等の行事に保護者が参観をする。	①保護者の参加率を上げるために、事前周知や活動内容の質の向上に努める。	4	学校公開や学校行事への保護者の参加率95%以上	4	道徳授業地区公開講座及び学校保健委員会の保護者の参加50人以上	○開かれた教育課程の実施のために、道徳授業地区公開講座を開き、54名の保護者の参加があった。 ○学校公開では170%、学校行事では平均295%の地域の方や保護者が参加した。	○今後も地域に開かれた学校であるために、様々な活動を公開したり、HPに更新したり、手紙やメール等で配信していく必要がある。	A	A	・多くの保護者が道徳授業地区公開講座に参加しているという事は、保護者・地域の教育への関心が高い証拠である。
			3	学校公開や学校行事への保護者の参加率90%以上	3	道徳授業地区公開講座及び学校保健委員会の保護者の参加30人以上					
			2	学校公開や学校行事への保護者の参加率80%以上	2	道徳授業地区公開講座及び学校保健委員会の保護者の参加10人以上					
			1	学校公開や学校行事への保護者の参加率80%未満	1	道徳授業地区公開講座及び学校保健委員会の保護者の参加10人以下					
	145周年記念行事を、子供、保護者、地域と協力して地域とのつながりを深める。 ①地域学習を全教室で校長が行う。 ②思い出に残る周年行事を開催する	①9月下旬までに全ての教室で校長の出前授業「一寺小の歴史」を展開する。 ②周年行事を通して愛校心を高める。	4	9月下旬までに校長出前授業の実施率100%	4	学校が好きと回答する児童95%以上	○全教室で校長出前授業を実施することができた。 ○学校が好きと回答する児童は、93%だった	○145周年記念行事を成功させることはできたが、少し大掛かりなものになってしまい、教員と子供の負担が生じてしまった。	A	A	昔の一寺小と比べ、教員の数が減っていると聞いている。行事での先生方の負担が大きくなっていると感じる。
			3	9月下旬までに校長出前授業の実施率93%以上	3	学校が好きと回答する児童90%以上					
			2	9月下旬までに校長出前授業の実施率86%以上	2	学校が好きと回答する児童80%以上					
			1	9月下旬までに校長出前授業の実施率86%以下	1	学校が好きと回答する児童80%未満					
	郷土文化を守り育てる教育の充実に努める。 ①墨田郷土資料館や地域の図書館、すみだ北斎美術館を活用した学習を展開する。	①資料館を利用した歴史の学習や、図書館と連携した学習、調べ方コンクールへの応募など、全ての児童が地域の学習関連機関を活用した学習を行う。	4	地域と関連した学習を行う100%	4	地域と関連した学習に肯定的な回答をする児童が95%以上	○低学年は、自然探しやお店屋さん体験、中学年はスーパ一見学やすみだ郷土資料館の見学、高学年は地域防災訓練等で、地域の学習を行うことができた。	○総合的な学習の時間や社会科の時間で、地域の学習を年間計画に位置付ける必要がある。	A	A	小学校体験で保育園が学校を見学した際は、学校の雰囲気がとてもよかったと聞いている。今後も信頼される学校をつくってほしい。
			3	地域と関連した学習を行う86%以上	3	地域と関連した学習に肯定的な回答をする児童が90%以上					
			2	地域と関連した学習を行う72%以上	2	地域と関連した学習に肯定的な回答をする児童が80%以上					
			1	地域と関連した学習を行う72%以下	1	地域と関連した学習に肯定的な回答をする児童が80%以下					

○令和6年度 学校経営報告のまとめ（総括）

今年度は、第一寺島小学校が創立145周年の記念すべき年となった。記念式典や記念集会、その他児童会が中心となった様々な企画やイベントで、学校が大いに盛り上がった年となった。また、保護者や地域の方々が参加する学校公開、運動会、音楽会など、どれも子供たちの素晴らしい活躍を披露することができた。

学習に関しては、各種学力調査の結果を授業に反映し、一人一人の学力の向上に努めることができた。一方で、教員の指導力の向上も、校内研究やOJTの充実により、授業力向上を図ることができた。

生活指導に関しては、一寺小の「あるじ」を基として、一人一人が相手や目的を考えて行動ができるように、子供たちが考える時間や、時に失敗する機会も許容しながら、一人一人の自立心の成長を目指した。友達同士の様々なトラブルやいざごは発生し、そのたびに、子供自らが考え、解決をしようとするのを教師が丁寧に支えることができた。